

### 3 持続的発展可能地域形成プロジェクト

照屋行雄

#### (1) 研究構想(プロポーザル)



## 目次

- 1 プロローグー共同研究設計の動機
- 2 研究の目的と研究組織の編成
- 3 研究の特色と成果の独創性
- 4 研究の年次計画と助成金の支出計画
- 5 研究遂行の基盤と期待される成果
- 6 エピローグー共同研究成果の活用



## 1 プロローグー共同研究設計の動機

- (1) 2010年度奨励助成研究の再設計
- (2) 「湘南学」共同研究の成果継続
- (3) 地域連携事業の総合ネットワーク化
- (4) 地域への大学発情報発信の強化



## 2 研究の目的と研究組織の編成

### (1) 研究の目的

#### ① 地域社会の形成と持続的発展可能性

自然と社会との共生を基軸に据えた「持続的発展可能な地域」の形成のあり方について、多面的・総合的に研究する。



## 2 研究の目的と研究組織の編成

### (1) 研究の目的

#### ② 地域マネジメントの機能と構造

新しい地域の形成について、地域経営(エリア・マネジメント)の考え方やアプローチに基づき、制度的・実践的に研究する。



## 2 研究の目的と研究組織の編成

- (1) 研究の目的
- ② 地域マネジメントの機能と構造

新しい地域の形成について、地域経営(エリア・マネジメント)の考え方やアプローチに基づき、制度的・実践的に研究する。



## 2 研究の目的と研究組織の編成

- (1) 研究の目的
- ③ 産公学域連携ネットワークの構築

地域にける有効な産公学域連携ネットワークの構築とその運営システムについて、実践的・具体的に研究する。



## 2 研究の目的と研究組織の編成

### (2) 研究組織の編成

#### ① 構成の多彩性

研究スタッフは、経営学部7名(非常勤講師含む)、理学部3名(名誉教授含む)及び人間科学部1名の計11名で、多彩な構成となっている。

#### ② 分野の多様性

研究スタッフの研究分野については、企業経営系、社会文化系、自然環境系及び地方自治系を中心に、多様な編成となっている。



## 3 研究の特色と成果の独創性

### (1) 研究の特色

- ① 地域の特質を踏まえた多面的で総合的な研究
  - i 経営系・マーケティング系など「経済活動と人間の関係性」の分析視点
  - ii 社会系・文化系など「社会制度と人間の関係性」の分析視点
  - iii 生態系・環境系など「自然環境と人間の関係性」の分析視点
  - iv 自治系・財政系など「自治行政と住民の関係性」の分析視点



### 3 研究の特色と成果の独創性

#### (1) 研究の特色

- ② 地域マネジメントの視点からの研究アプローチ  
地域形成の方向として採用する“持続的発展可能性”を、地域経営という新しいアプローチによって探求し、新しい時代的文脈の中で理論的に体系化し、実践的にモデル提示する。



### 3 研究の特色と成果の独創性

#### (1) 研究の特色

- ③ 多彩な分野の研究スタッフによる学際的研究  
本プロジェクトで組織した研究スタッフは、多様な専門的研究と多彩な研究実務従事者の経験をもっており、本共同研究の遂行と期待される成果の達成に不可欠な学際的研究が、効率的・生産的に行い得る構成となっている。



### 3 研究の特色と成果の独創性

#### (2) 成果の独創性

- ① 持続的発展可能な地域社会形成の規定  
持続的発展可能性についての独自の概念規定を行うとともに、自然と社会との共生を追求する視点から、それに適合する地域形成の諸要素を明確に提示する。



### 3 研究の特色と成果の独創性

#### (2) 成果の独創性

- ② 産公学域連携ネットワークの構築と運営  
持続的発展可能な地域の形成を踏まえて、当該地域における“産公学域”連携ネットワークの構築とその運営システムを提示する。



### 3 研究の特色と成果の独創性

#### (2) 成果の独創性

#### ③ “湘南地域学”に関する全体構想の提示

持続的発展可能な地域形成の研究過程で、代表事例の1つに“湘南地域”を取り上げて多面的・総合的に学問的考察を加え、“湘南地域学”の構想を提示する。



### 4 研究の年次計画 と助成金の支出計画

#### (1) 研究の年次計画

#### ① 2011年度の研究計画と方法

- i 地域研究基盤の整理
- ii 概念フレームワークの構築
- iii 地域特性と地域の潜在力





## 4 研究の年次計画 と助成金の支出計画

### (1) 研究の年次計画

- ② 2012年度の研究計画と方法
  - i 国内・国際地域間の比較研究
  - ii 地域経営の運営システム
  - iii 地域の持続的発展可能性



## 4 研究の年次計画 と助成金の支出計画

### (1) 研究の年次計画

- ③ 2013年度の研究計画と方法
  - i 地域価値の決定因子と価値創造
  - ii 産公学域連携ネットワークの開発
  - iii 共同研究成果の総括と提言



## 4 研究の年次計画 と助成金の支出計画

### (2) 助成金の支出計画

- ① 2011年度支出金額  
1,950,000円・・・地域特性調査、関係者・団体調査等
- ② 2012年度支出金額  
2,250,000円・・・先進地域事例調査、資料集印刷等
- ③ 2011年度支出金額  
1,800,000円・・・成果報告書印刷、シンポジウム開催  
(助成申請総額 6,000,000円)



## 5 研究遂行の基盤と期待される成果

### (1) 研究遂行の基盤

- ① “湘南学”構想研究プロジェクトの展開
- ② ドラッカー研究会の成果応用
- ③ 「循環型社会論」の共同研究
- ④ 神奈川新聞への“地域力”記事連載
- ⑤ 地域経営者との産学連携プログラム
- ⑥ 国際経営シンポジウム等との連動



## 5 研究遂行の基盤と期待される成果

### (2) 期待される成果

- ① 2011年度の初期成果
  - i 地域潜在力分析とそのモデル化
  - ii 湘南地域の事例研究成果の点検
- ② 2012年度の間中成果
  - i 地域特性比較資料集の作成
  - ii 地域発展構想比較資料集の作成
- ③ 2013年度の最終成果
  - i 研究成果報告書の発行
  - ii 地域経営シンポジウムの開催



## 6 エピローグー共同研究成果の活用

### (1) 研究の展望

- ① 諸外国の地域形成の事例調査を行うこと
- ② 「持続的発展可能な地域」のモデル検証
- ③ 産公学域連携ネットワークの構築拡充

### (2) 成果の活用

- ① シンポジウム・フォーラム等の継続開催
- ② 学部・大学院・生涯学習等での講座開設
- ③ 研究書・基本書等の執筆・出版



「神奈川大学共同研究奨励に係る公聴会」

持続的発展可能な地域の  
形成に関する総合的研究

—自然と社会との共生を求めて—

ご清聴有り難うございました。

## (2) 「循環型社会論」の教育体系

授業科目	循環型社会論
	Theory of Circulative Society
担当者	教授 海老澤 栄一 教授 小笠原 強 教授 西本 右子 准教授 奥邨 弘司
単位	2
曜日・時限	水曜日 4時限 水曜日 5時限

### 到達目標

本講座は、理学部と経営学部に通に開講されている講座の1つです。社会諸現象が単独の学問領域で説明できなくなって来ている現代、私たちに必要なのは、複合的に観察する力です。この講座では、社会科学領域、自然科学領域の専門家が集まり、多面的な分析視点をもつことの意味を語ります。達成目標は複眼力を身につけることにあります。

### 授業内容

複数の異なった学問を横断する領域の1つに資源や環境、気候、汚染などを包含する循環の問題があります。しかもこの循環は複雑で多様な動作を広範囲にわたって繰り広げるところに、これまでの学問領域とは異なった特徴をもっています。循環を特定学部の特定領域に限定してしまうと、ものごとの本質を正しく捉えることをできにくくしてしまいます。そのため経営学部と理学部とが連携し、いわば文理融合の形で2008年度より新しい複合講座を開講し、実施しています。シラバスの作成も両学部の講座担当者が共同で行い、両学部の多くの学生に広く履修を呼びかけ、実施し、改良を重ねて来ました。この講座は、①特定学部に設定されている講座を他学部生が受講するという形ではなく、あくまでも両学部が共同で開発した同一内容の文理融合型講座を両学部生が受講する形態をとっていること、②専門分野の異なるゲストスピーカーによる各種の興味深い講義を積極的にとり入れていること、

③情報や意見、アイデア交換などが可能であること、④問題意識をもった学生による実社会での応用機会への途を開いてあげることができること、を主な特徴としています。

## 授業計画

本講義は以下の内容で実施します。ただし、各回の講義予定は、開講時に説明します。

初回のオリエンテーションにおいて、各回の授業に必要な基礎知識と参考書を示すので、関連内容の予習をしてから授業に臨むこと。

毎回レポート作成が義務づけられるので、よく復習し、参考文献等の発展の学習を行った上でレポートを作成すること。

1. オリエンテーション
2. 循環型の考え方
3. 非循環型社会と実際
4. 地域環境と市民生活
5. 自然循環と人口循環との統合
6. 暮らしの循環
7. 地域間提携と自然共生
8. 循環システムと行政とのかかわり
9. 資源活用と温暖化対策
10. ハイテクと循環システム
11. 循環型社会と法律
12. 地球環境と微生物
13. バイオマス資源を用いた循環型処理技術の開発
14. グリーンサステナブルケミストリー
15. 総括と展望

## 授業運営

経営学部および理学部の専任教員が科目責任者となって本講座全体の運営に当たります。また、個別テーマについては専任教員に加えて専門のゲスト

スピーカーを招いて内容の濃い授業を行います。受講生は毎回レポート作成が義務づけられます。レポート形式や提出方法については、開講時に指示します。テキストは指定しませんが、開講時に参考文献リストを配布します。授業ではプリント等の教材を必要に応じて配布します。

## 評価方法

提出されたレポートを中心に評価し、授業中の発言等の状況を加味する。

## オフィスアワー

オリエンテーション時に周知します。

＜神奈川大学経営学部 2012年度シラバスより＞

## (3) “地域力”の究明試論

### ① 新聞連載特集の趣旨

『神奈川新聞<BAYSIDE PRESS>』の“大学発 RESEARCH”（12回連載）企画案（2010.8.17／照屋行雄作成）は、神奈川地域の“地域力（神奈川力）”を基本テーマとして特別連載とした。

本連載の狙いは、神奈川県および県内各地域の自然環境、歴史資源、産業経済、企業経営、生活文化、教育水準、県民意識などの多方面から地域特性を明らかにし、地域力（神奈川力）の源泉たる各種潜在能力を探り出すことにある。

本連載では、神奈川県在住の県民・市民はもとより、広く企業関係者、行政当事者、生活・消費者、県内入域客、県外関係者などの読者に対して、神奈川県と県内各地域の特性とポテンシャルティを知らしめるとともに、確かな成長力と魅力ある個性を地域ブランド形成のバリュー・ドライバー（価値決定因子）として紙面で点検・評価する。

今日、時代のキーワードは個性と国際の健全な調和にあると認識される。現代社会の国際化が進展すればするほど、それを構成する個人・家族にも企

業・団体にも、さらには、地域・地方にも行政・国家にも、ますます個性の確立が求められるようになった。

将来における厳しい地域間競争の社会では、地域それぞれの魅力や活力からなる個性の勝負ということになることは間違いない。本県全域とそれを構成する各地域や個々のコミュニティーの持つ潜在力と魅力ある個性を、共同研究としての地域研究の成果として取りまとめ、有用な情報の提供と地域の見方・考え方のヒントを提示することとする。

具体的には、12回の連載内容を、大きく4つのカテゴリーに区分し、次のような構成とする。

- 1) 経営系・マーケティング系など「経済活動と人間の関係性」から捉えた地域研究の成果に関する記事
  - ① 企業の進化過程論と県内企業の経営力(第5回／後藤)
  - ② 神奈川県経済の需要構造と消費者行動の特性(第9回／行川)
  - ③ 中小・中堅企業における人的資源の管理(第11回／林)
- 2) 社会系・文化系など「社会制度と人間の関係性」から捉えた地域研究の成果に関する記事
  - ① 地域価値の創造と地域産業の振興(第4回／照屋)
  - ② 地域に生きる価値と共同体意識の再生(第2回／杉山)
  - ③ 企業におけるキャリア形成支援と人材育成(第6回／浅海)
- 3) 生態系・環境系など「自然環境と人間の関係性」から捉えた地域研究の成果に関する記事
  - ① 地域における自然観察と人間行動の関係(第3回／杉谷)
  - ② 自然環境の保全・再生と地域の環境政策(第8回／西本)  
神奈川県の自然特性と動植物の生態(第10回／小笠原)
- 4) 自治系・財政系など「自治行政と住民の関係性」から捉えた地域研究の成果に関する記事
  - ① 地域の特性と地域マネジメント(第1回／海老澤)
  - ② 日本における自治行政の過去・現在・将来(第12回／出口)
  - ③ わが国の財政構造と地方財政の展望(第7回／青木)



本連載記事については字数に制限があるとはいえ、できるだけ最新のデータに基づき、具体的で有用な内容となるよう十分に考慮することを特色とする。そして、何よりも神奈川県内の地域特性と地域力の実態を描出するとともに、県民意識や地域文化の点検と評価を行うことによって、神奈川県と域内各地域の持続的で調和ある将来の発展を展望する上で、有用で示唆に富む記事が読者に提供されることに努める。

全部で12稿の連載記事が全体として提示する情報内容が、市民一人ひとりが懸命に生活するわが街や、内外の多様な人々が交流するわがコミュニティに関する間違いのないファクトブックとなり、かつ、ジャイロコンパスとなることを目指したい。記事執筆者の理解と執筆上の努力をお願いしたいと思う。

## ② 連載記事の概要

連載期間 2011年1月～12月(毎月第1火曜日、連続12回シリーズ)

第1回(1/4) 海老澤栄一 (神奈川県立大学経営学部教授・経営管理)

「地域の特性と地域マネジメント

—地域ブランドの構築と地域間連携—」

第2回(2/1) 杉山 崇 (神奈川県立大学人間科学部准教授・臨床心理)

「地域に生きる価値と共同体意識の再生

—県民意識の特性と協働行動の態様—」

第3回(3/1) 杉谷嘉則 (神奈川県立大学名誉教授・分析化学)

「地域における自然観察と人間行動の関係

—神奈川県の風土特性と里地里山再生—」

第4回(4/5) 照屋行雄 (神奈川県立大学経営学部教授・企業会計)

「地域価値の創造と地域産業の振興

—コミュニティ・ビジネスの展開とその役割—」

第5回(5/2) 後藤 伸 (神奈川県立大学経営学部教授・経営史)

「企業の進化過程論と県内企業の経営力

—新興企業と老舗企業の競争力評価—」

- 第6回(6/7) 浅海典子 (神奈川県立大学経営学部准教授・人間関係)  
「地域社会における仕事・職業・労働のあり方  
—職業的アイデンティティーの確立と市民意識—」
- 第7回(7/5) 青木宗明 (神奈川県立大学経営学部教授・地方財政)  
「わが国の財政構造と地方財政の展望  
—地方分権の確立と自主財源の拡大—」
- 第8回(8/2) 西本右子 (神奈川県立大学理学部教授・環境科学)  
「自然環境の保全・再生と地域の環境政策  
—快適な住民生活と緑地・水辺・土壌—」
- 第9回(9/6) 行川一郎 (神奈川県立大学経営学部教授・マーケティング論)  
「神奈川県経済の需要構造と消費者行動の特性  
—地域ソーシャル・マーケティングの展開—」
- 第10回(10/4) 小笠原 強 (神奈川県立大学理学部教授・生物科学)  
「県立大学の自然特性と動植物の生態  
—人の暮らしと生物多様性の関係—」
- 第11回(11/1) 林 悦子 (神奈川県立大学経営学部教授・人的資源管理)  
「中小・中堅企業における人的資源の管理  
—企業の人材活用と能力開発のあり方—」
- 第12回(12/6) 出口裕明 (神奈川県立大学法学部教授・自治行政)  
「日本における自治行政の過去・現在・将来  
—新しい時代の地域運営のあり方—」